

## 「夢と活力あふれる高校づくり推進費」事業計画書

管内	石狩	学校名	北海道札幌北陵高等学校 (全日制)	※
校長名		電話番号	011-772-3051	※
設置学科(生徒数)	全日制普通科 (991名)			※
実践テーマ	北海道学力向上フロンティアハイスクール			
目標	<p>○生徒ひとりひとりの能力を最大限に伸ばし、調和のとれた人格形成を育むなかで、将来は北海道を担うリーダーとなりうる人材の育成をめざす。</p> <p>○本校の目指す学校像である「進学校」+<math>\alpha</math> の具体的方策として「知のネットワーク化」による「確かな学力」の向上をめざす。</p>			
実践 計画	1年目 (H16)	<p>【基本的に平成16年度入学生を研究対象学年とする。】</p> <p>1 学習状況調査および分析  (1) 高校入学時からの学力向上についての調査研究 (追跡調査)  (2) 学習実態の把握と学習意欲向上についての調査研究</p> <p>2 教育課程の評価  (1) 平成16年度入学生教育課程の評価  (2) 平成17年度教育課程の編成</p> <p>3 授業改善とシラバスの作成  (1) 授業改善の取組 (授業アンケートや授業公開等)  (2) 評価規準・評価方法の調査研究とシラバスの作成</p> <p>4 地域との連携  (1) 外部人材の活用による研修会  (2) 高大、中高連携の取組</p>		
	2年目 (H17)	<p>【基本的に平成16・17年度入学生を研究対象学年とする。】</p> <p>1 学習状況調査および分析  (1) 高校入学時からの学力向上についての調査研究 (追跡調査、2ヶ年の比較)  (2) 学習実態の把握と学習意欲向上についての調査研究</p> <p>2 教育課程の評価  (1) 平成16・17年度入学生教育課程の評価  (2) 平成18年度教育課程の編成</p> <p>3 授業改善とシラバスの活用  (1) 授業改善の取組 (授業アンケートや授業公開等)  (2) 評価規準・評価方法の調査研究のまとめ  (3) シラバスの活用</p> <p>4 地域との連携  (1) 外部人材の活用による研修会 (座談会等の実施)  (2) 高大、中高連携の取組</p>		
本年度における 実施のスケジュール (予定)	<p>4月 学力向上フロンティアハイスクール事業計画細案の検討</p> <p>5月 教育課程の検討 (平成18年度入学生)</p> <p>6月 学習実態の把握と学習意欲向上についての調査研究  授業改善の取組 (授業公開・教科研修等)</p> <p>7月 先進校視察・報告</p> <p>8月 中高連携の取組 (授業等交流会)</p> <p>10月 シラバス・評価規準に関する検討、外部人材の活用による研修会</p> <p>11月 高大連携の取組 (高大連携プロジェクト授業・出張講義)</p> <p>12月 学力向上についての調査研究 (追跡調査) 16・17年度入学生の比較研究</p> <p>2月 研究のまとめ</p>			

<p>期待される成果</p>	<p>1 学習状況調査および分析          ○学習意欲や学力の実態把握と学習指導目標の明確化          ○中学校との学習内容の接続状況の把握</p> <p>2 教育課程の評価          ○学習意欲や学力の実態に応じた柔軟な教育課程の編成          ○進学校として生徒のニーズに応える教育課程の編成</p> <p>3 授業改善とシラバスの作成          ○具体的な到達目標の設定による学習意欲の喚起および主体的な学習習慣の確立          ○教員の資質の向上と授業の質的向上</p> <p>4 地域との連携          ○主体的な進路選択能力の育成          ○中高の連携による学校の相互理解          ○本校の外部評価と進むべき方向の確認</p>
<p>地域や他校への情報発信の方法</p>	<p>○学校のホームページや学校便り・案内等による情報発信          ○シェアリングネットワーク会議、各種研究会、学校説明会等で発表・報告          ○研究紀要等による報告書の掲載</p>
<p>取組に対する事業評価の実施方法</p>	<p>○学習状況調査における学習意欲の向上や学力向上の分析による評価          ○授業公開・教科研修等による自己評価          ○全教職員による学校評価を活用した内部評価          ○外部人材の活用による研修会等の外部評価          ○学校評議員・PTA等による外部評価          ○進学実績等による評価</p>
<p>その他特に記載すべき事項</p>	<p>○本事業への取組は、本校の目指す学校像「進学校」+<math>\alpha</math>の具体的な取組である「プロジェクト<math>\alpha</math>」の一環である。          今年度は地域に根ざした進学校としての取組を一層充実させるため、以下の3点を重点的に取り組むことにしている。          (1) 将来的な展望に立った学校のシステムに関わる検討          (2) 進学校としてのシステムの一層の充実          (3) 地域・学校間の連携とPR活動の充実</p>
<p>※</p>	

- 【留意事項】
- ① 奨励期間は原則として2年間とするが、奨励校の決定は年度ごとに行う。
  - ② 本年度の奨励校が次年度の奨励校指定を保証するものではない。
  - ③ 事業計画書の実践計画と実際の実践内容が大幅に異なるなど、奨励校としての指定に困難な状況が生じた場合、年度途中であっても奨励校の指定を取り消すことがある。

「夢と活力あふれる高校づくり推進費」PRシート

管内	石狩	学校名	北海道札幌北陵高等学校 (全日制)	※
校長名		電話番号	011-772-3051	※
設置学科(生徒数)	全日制普通科(991名)			※
実践テーマ	北海道学力向上フロンティアハイスクール			

【背景】これまでの本校の取組

- 平成9年度二学期制導入(履修修得の分離・柔軟な教育課程の編成・2年後期からの類型選択制)
- 進学講習体制の整備および強化(低学年におけるセット講習・2年後期からの選択講習)
- 主体的な学習の取組と学習習慣の確立(朝学習・朝テスト、週末課題、自主課題等の徹底)

【これからの北陵高校が目指す学校像】

**進学校+α**

「ひとりひとりの能力を最大限に伸ばし、調和の取れた人格形成を育む」

地域に根ざした進学校としての一層の充実

将来の北海道を担うリーダーとしての人材育成

学力向上フロンティアハイスクール

学習状況調査および分析  
↓  
評価規準・評価方法の確立  
シラバスの作成・授業改善

外部人材の活用

教育課程の検討

高大連携  
中高連携

進学指導体制の  
充実

先進校視察

二学期制の充実

個に応じた学習指導の充実・学習意欲の向上

**知のネットワーク化**

「確かな学力」の向上

学校名	北海道札幌北陵高等学校	学年	1年	2年	3年	計
研究指定	北海道学力向上フロンティアハイスクール	クラス数	8	8	9	25
		人数	320人	313人	354人	987人

指定当初（平成15年度）において把握している生徒の学力・学習の実態	
○ 学習状況調査（学習時間や学習意欲等のデータ）	○ 実用英語技能検定試験受検者数 31人（対象第1・2学年）
○ 成績上位者数（評定平均4.3以上）184人 成績不振者数 30人（1・2学年対象）	○ 遅刻者数 254人（第1・2学年）
○ 模擬試験（全国平均SS50.7）（H16別紙様式1では50.8）	

指定期間（平成16～17年度）に実施した学力向上のための具体的な方策	
<p>1 指導内容の精選、指導方法、指導形態の工夫・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業公開、授業アンケートにより学習指導方法を改善した。</li> <li>○ シラバス作成に向けて授業内容を精選し、授業計画を見直した。</li> <li>○ O C I の授業において1クラス2展開の少人数指導を実施した。</li> <li>○ 朝学習・朝テスト・朝コラム等の取組により、学習の習慣化と学力向上を図った。 (第1・2学年)</li> <li>○ 英語I・古典・化学Iを1単位増やした。</li> <li>○ 情報Cにおいて、TTを実施した。</li> </ul>	<p>2 評価方法の工夫・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外部講師を招へいし、評価に関する全体研修を行った。</li> <li>○ 評価規準等を事前に示すことによる生徒の学習意欲の変化に関して研究し、生徒公開用シラバスを作成した。</li> </ul> <p>3 その他の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「北海道公立学校学習状況調査（高等学校）」や「平成17年度学力等実態調査」の結果について分析を行い、生徒の学力の課題を明確化し、解決策を検討した。</li> <li>○ 中学校訪問や中学生との教育懇話会等により、中高連携を図った。</li> </ul>

学力向上などの成果を把握する方法	
<p>1 「確かな学力」の向上</p> <p>(1) 学習意欲の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習状況調査、実用英語技能検定試験受検状況、スピーチコンテストに関する意識調査</li> </ul> <p>(2) 知識の量や問題解決能力などの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実用英語検定試験受検者数、成績資料、模擬試験の結果</li> </ul>	<p>2 その他の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ シラバスに関する教員アンケート</li> <li>○ 遅刻者統計</li> <li>○ 中学校訪問アンケート</li> <li>○ 学校説明会アンケート</li> </ul>
これまでの具体的な成果	
<p>1 「確かな学力」の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 朝学習に対する意欲と効果 効果「有」42.6% (15年度より2.1%増)</li> <li>○ 模擬試験 全国平均SS52.6 (15年度よりSS1.9増)</li> <li>○ 成績上位者数（評定平均4.3以上）186人 (15年度より2人増)</li> <li>○ 成績不振者数 27人 (15年度より3人減) (1・2学年対象)</li> <li>○ 実用英語技能検定試験受検者数 125人 (15年度より94人増) (対象第1・2学年)</li> </ul>	<p>2 その他の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ シラバス作成による教員の授業改善意識の向上</li> <li>○ 朝学習等の取組による成果 遅刻者数 229人 (15年度より25人減) (第1・2学年)</li> <li>○ 中学校の本校に対する理解度の向上 (回答校の80%)</li> <li>○ 学校説明会の参加人数の増加 917人 (16年度より197人増)</li> </ul>
これまで行ってきた研究成果の普及方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Webページによる本事業内容の公開（平成16・17年度）</li> <li>○ 研究集録等への研究成果の掲載及び管内他校への配付</li> </ul>	

今後の取組内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の学力の正確な把握 → 本校独自の学力分析と学力等実態調査の効果的な活用</li> <li>○ 授業改善と評価規準の研修 → シラバスの活用と授業計画の再検討、評価規準の再検討</li> <li>○ 教育課程の検討 → 現教育課程の検証に基づく、平成19年度入学生教育課程の編成</li> <li>○ 「進学校+α」具現化への一層の推進 → 導入期指導と総合的な学習の時間の検討</li> <li>○ 本校の教育活動に対するニーズの把握 → 生徒・保護者・評議員による学校評価結果から改善への検討</li> </ul>	

平成17年度学力等実態調査結果に見られる本校の課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「話す・聞く能力」「知識・理解」の部分十分ではない（国語）</li> <li>○ 「数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしているか」という部分十分ではない（数学）</li> <li>○ 「指定された状況や文脈に応じた内容を書くこと」に関して十分ではない（英語）</li> </ul>

指導方法等の改善のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 要点を書き留めさせる等、授業での指導方法の工夫を図る（国語）</li> <li>○ 別解を含めた様々な解き方を提示するなど、多面的な数学のとらえ方ができるよう指導の工夫を図る（数学）</li> <li>○ 「覚える」だけでなく「使う」ことを意識し、英語を道具として自らを発信できるような授業の工夫を図る（英語）</li> </ul>

# 札幌北陵高校における「確かな学力」を向上させるための方策

